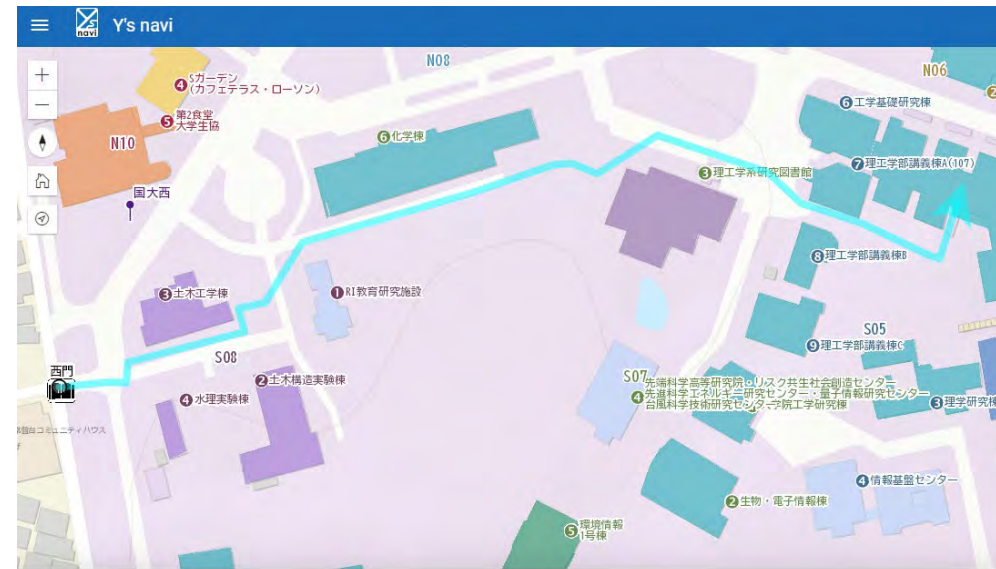
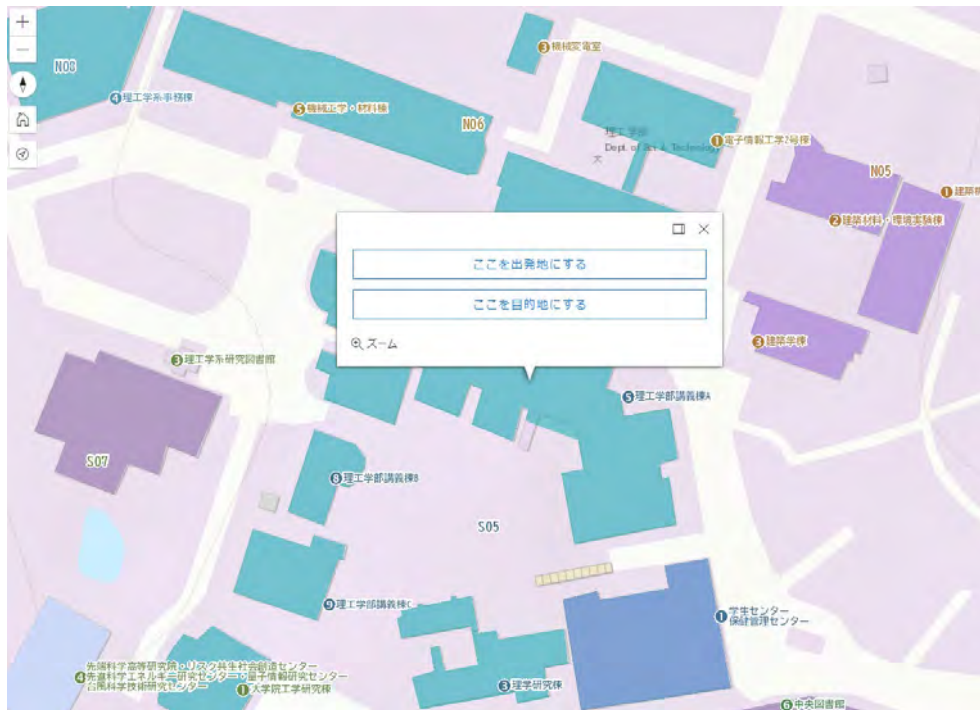


キャンパスライフの質を高める多様な機能を実装 (1)

経路検索機能

- 建物レベルでの最短歩行経路の検索が可能
- 歩行者専用路なども含む詳細なルートを、距離や所要時間とともに提示



ルート候補選択

★ 0.3 km 徒歩 4 分
到着予定時刻 08:53

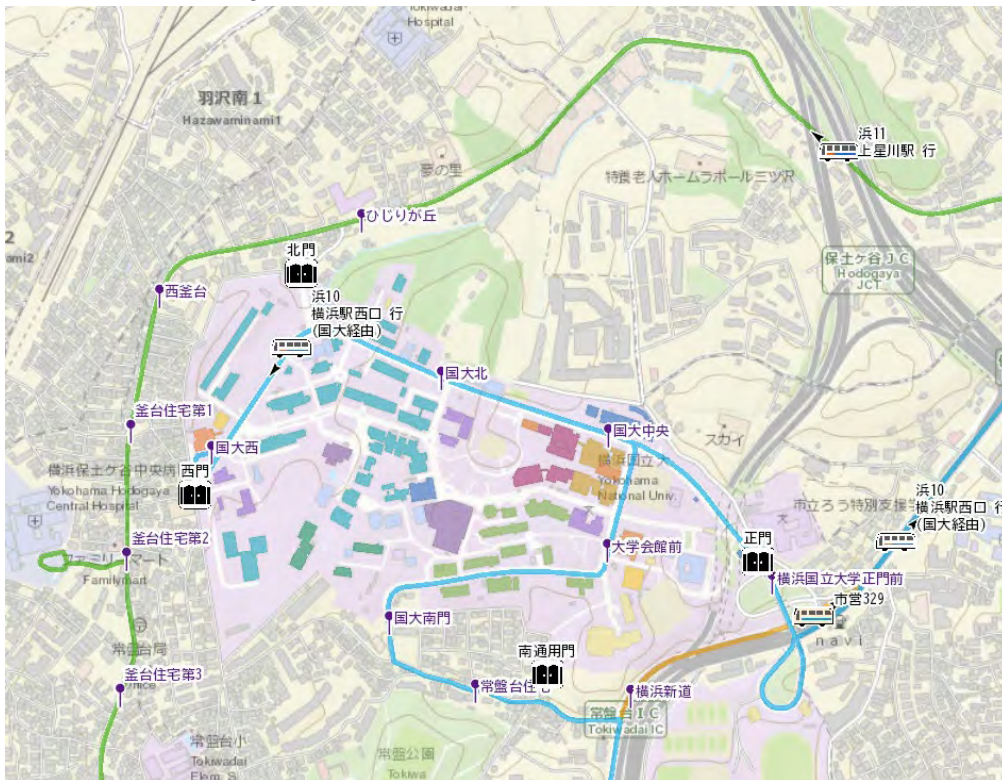
キャンセル 案内開始

キャンパスライフの質を高める多様な機能を実装 (2)



バス運行情報

- 大学構内および周辺を運行する路線バス（複数事業者）の情報を統合 & 可視化
→ **オープンデータ（GTFS-RT, 各社バスロケ）と連携**し、リアルタイム運行情報を提供
- アプリや Web で検索することなく、キャンパスに關係のあるバスの情報だけがすぐに得られる。



← 複数事業者のバス現在位置情報を一元的に表示

↓ 現在時刻直近のバス発車予定時刻を系統別に表示

× 周辺バス時刻表 時刻表は2022年4月時点のものです。

時刻表 (平日)

発車予定	系統	行先	のりば
13:07	浜5	横浜駅西口	D階段 南のりば
13:20	市営202	横浜駅西口	E階段 南のりば
13:22	市営201	横浜駅西口	F階段 南のりば
13:22	浜5	横浜駅西口	D階段 南のりば
13:30	浜11	上星川駅	D階段 南のりば
13:37	浜5	横浜駅西口	D階段 南のりば
13:40	市営202	横浜駅西口	E階段 南のりば
13:45	浜11	上星川駅	D階段 南のりば
13:52	浜5	横浜駅西口	D階段 南のりば
14:00	浜11	上星川駅	D階段 南のりば
14:07	浜5	横浜駅西口	D階段 南のりば
14:16	浜10	横浜駅西口	D階段 南のりば

キャンパスライフの質を高める多様な機能を実装 (3)

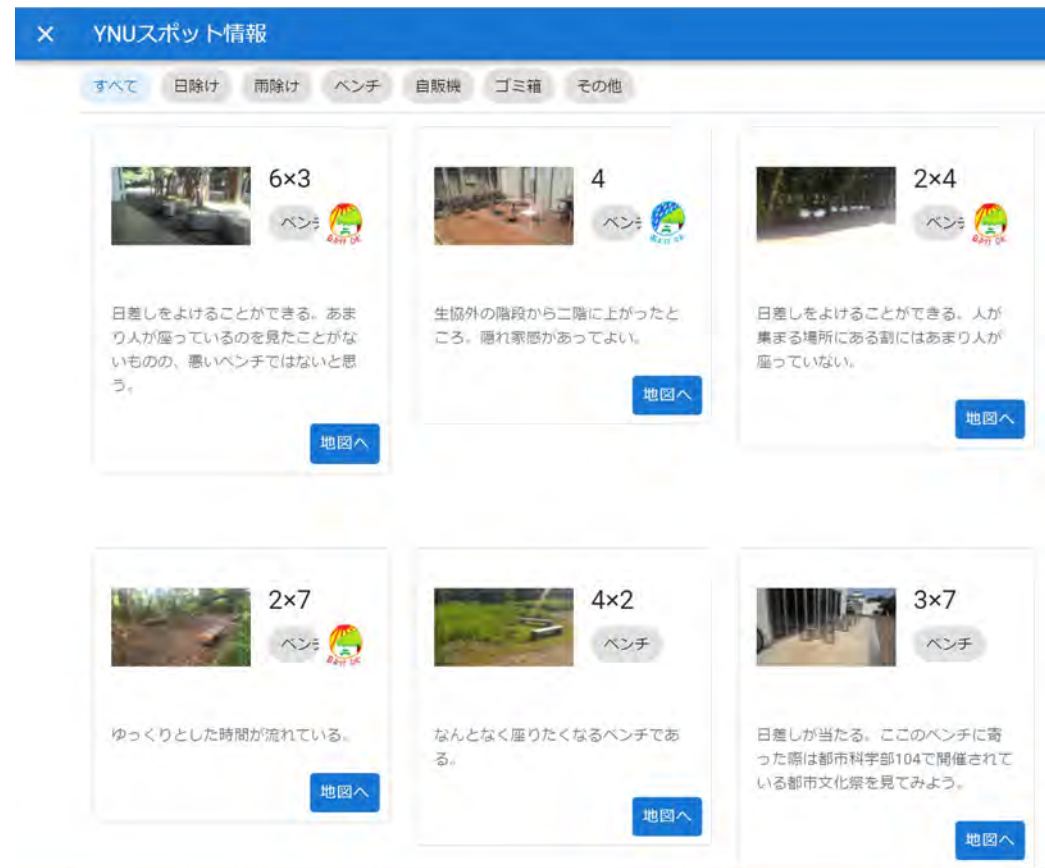
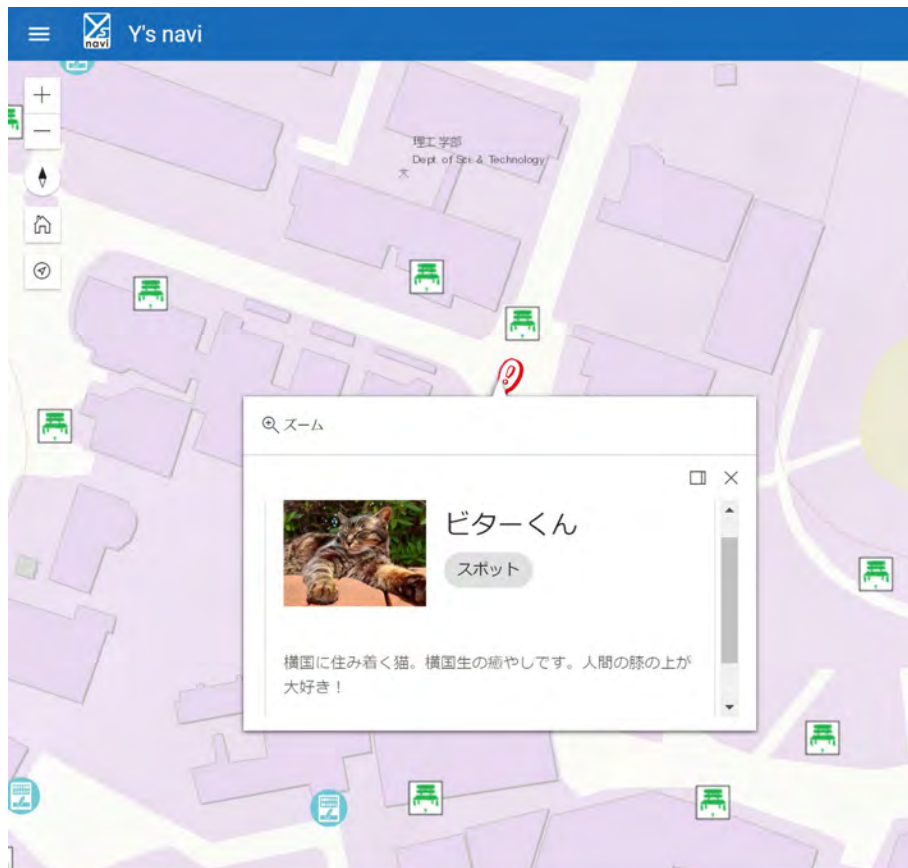


オススメスポット



休憩スポット

- 画像と文章付きで、キャンパス内のおすすめスポットが分かる。
- 雨に濡れないベンチや、日差しを避けられるベンチをまとめて表示。



キャンパスライフの質を高める多様な機能を実装 (4)

和田べん情報

- 近隣の「和田町商店街」の飲食店が作った弁当を、学生有志がキャンパス内で直売。
- 毎回の**販売場所、販売時間、販売品目、残数の目安**などをリアルタイムに表示。
- 出品の有無や残数は専用の管理画面で制御。



↑ 弁当情報の管理ページ (販売者向け)



← 弁当の販売情報は Twitter と自動的に連携

取り組み③：みらいの駅まちづくりチーム

ゴール

沿線が魅力的になり、居住地として人々に選ばれ続ける。

対象エリア

- 横浜市金沢区富岡・能見台地区（京急沿線班）
- 藤沢市村岡新駅周辺地区

課題

モビリティ（移動）とアクティビティ（活動）の両面から、鉄道沿線郊外住宅地の暮らしを革新する施策を提案し、実践する。

カウンターパート
(外部連携機関)

- 京急電鉄株式会社（京急沿線班）
- 藤沢市（村岡新駅(仮称)班）

KEIKYU
京急電鉄

YNU
横浜国立大学

OPEN
YOKOHAMA



横浜市富岡西エリアの共創型地域モビリティサービス「とみおかーと」

JR 東海道線 村岡新駅周辺整備計画



藤沢市「村岡新駅周辺地区 まちづくり方針」より

住民と協働でまちづくり活動を展開し、地域の魅力向上に貢献



遊休駐車場活用の市民イベント「おかまちひろば」
(地元商店、大学、企業等が出展：集客2千人)



駅前調剤薬局待合室の地域への開放
(とみおかーと待合室、古本ライブラリ等)



子どもたちによる「とみおかーと」車両へのペインティング



ペインティングの成果を基に車両外面をリデザイン

10年後の駅開業に向け、10年後の中心世代との連携を模索



「小学生対象のまちづくりワークショップ」
自分のまちへの関心や興味を喚起



「中高生対象のまちづくりワークショップ」
新たな駅や駅前へのニーズを収集



懐かしの展示品等をきっかけとした
40~50代の子育て世代との対話



設定されたコンセプト毎に
村岡新駅周辺の空間のあり方を発想




グリーンスローモビリティ車内での
参加者からの意見収集



小さなお子様向けの展示をきっかけとした
親世代との対話

3. 総合知人材育成の可能性と課題

モビリティ・デザインから見た総合知人材育成の可能性と課題

- 多様な知の連携（場づくり、相互の協力体制など）についての方法や工夫
 - まずできることから実行する「**DCAP: Do > Check > Action > Plan**」のスタンス
 - **実践的協働**を通じてステークホルダー間の信頼関係を醸成し、**強み弱みを相互に理解**
 - 上記を科目化することで、大学としての**地域社会への貢献と人材育成の継続性**を担保
 - 教員は**プレイヤー兼ファシリテーター**として積極的に関与し、必要な知的リソースを提供
 - **大学発ベンチャー** LocaliST(株) が、学生の活動への**技術的・経済的支援**を実施
- 総合知人材を育成するうえでの課題と対応
 - オープン型専門人材の**育成者を育成するための体系的な仕組み**が大学に不在
 - 社会課題解決のための実践活動を行う**教員や学生を適切に評価する仕組み**の不在
 - 共創の実態としての**各専門家の分業制** → **連携のための連携**となっているケースが散見
 - まずは**大学の外部に対して活動の価値を認めてもらう**ことに注力。
 - 成果報告会をシンポジウム形式でオープンに開催し、企業、行政、他大学等の多様な参加者と接点をもつことで、**新たなプロジェクトの組成やリソースの提供**につなげる。
 - その実績を学内に報告・発信し、**評価・支援の枠組み構築の動き**が生まれることを期待。

『モビリティ・デザインの実践』活動成果の対外的な発信

- 2022年11月25日に**中間報告会**を開催。学生、企業、自治体関係者等が多数参加（MD に直接関与していない方々を含めて約 100 名）。**学生が主役のプレゼン & パネルディスカッション**で議論。
- 内閣府による「総合知キャラバン」の取り組みともタイアップし、総合知の観点で活動の意義を議論。



【中間報告会の様子】

意見交換・アンケートにおける主な意見

（場の構築）

- ・多様な人材や知が集まるようなプラットフォームづくりに力を入れるべき。
- ・1つのテーマを定め、それを皮切りに自由に話せる場がよい。
- ・他業種の人が集まり、**学生でも入りやすい場**があるとよい。

（人材育成）

- ・経営から**権限を与えられたファシリテーター**の存在が必要。
- ・総合知活用人材の育成には、**縦割り、部門別組織の見直し**が必要。
- ・人事異動等で人と人の**つながりを途切れさせない**ことが必要。
- ・**成功体験を持つ方**のコンサルティングが必要。

（人材活用・キャリアパス（評価））

- ・定性的な取り組みによる成果の評価指標が必要。

（総論）

- ・総合知には**役割分担してやっていたプロセスも共有**することが重要。
- ・総合知レベルの向上には各界の連携は不可欠。
- ・成果物の著作権保護と情報開示方法も考えておいた方がよい。
- ・自治体、大学、産業界が連携した総合知の取組の環境づくりが必要。